

# 広葉樹材利用に関する調査報告



奈良県森林技術センター

# 目 次

はじめに	1
1. 奈良県内の天然生林で生育する樹種	2
2. 広葉樹材の流通【調査結果】	2
3. 広葉樹材の現在の一般的な用途【調査結果】	3
4. 広葉樹材の現在の取引価格【調査結果】	4
5. 広葉樹材の利用状況【調査結果】	5
6. 需要見込みのある樹種	9
7. 広葉樹サンプル材を用いたアンケート【調査結果】	15
8. 早生樹（センダン）	23
9. まとめ	24
参考文献・謝辞	25



## はじめに

奈良県では、森林を適切に管理し、森林の持つ4つの機能（防災機能、森林資源生産機能、生物多様性保全機能、レクリエーション機能）を高度に発揮させることを目標に、「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」を令和2年4月1日に施行しました。

この条例では、目指すべき森林の姿として4つの林型（恒続林、適正人工林、自然林、天然林）をあげており、「恒続林」については、「地域の特性に応じた様々な種類の樹木が異なる高さで存在し、適時かつ適切な方法による保育及び択伐による継続的な木材生産により環境が維持される森林」と定めています。

このような中で、今後「恒続林」への誘導に向け、その地域にあった広葉樹の植栽、保育、伐採を実施していくことが想定されますが、条例にもある継続的な木材生産には、伐採した木材に利用価値があり、高値で取引されることが求められます。

そこで、広葉樹材利用の現状やニーズを把握するため、県内外の市場や製材、木工、家具などの製作販売を行っておられる関係者から聞き取り調査を実施するとともに、設計者や施工者などの建築の専門家を対象にアンケート調査を行い、建築物への利用に向けたニーズ調査を行いました。

これらの結果を広葉樹材利用に関する調査報告としてまとめましたので報告します。